

面倒なブラシがけ・しみ抜きが激減

現場の声 「手間が省ける」「低温で汚れ落ちが良い」

AMG有馬義（エイエムジー）株式会社、東京都品川区／電話03-3771-1121が、春の衣替え応援で「プロのダウン洗いキャンペーン」を2月1日からスタートした。中性タイプの液体洗剤「ダウン用洗剤」と、特殊シリコン配合の仕上げ剤「ダウン用仕上げ剤」の組み合わせで「手間が省ける」「低温で汚れ落ちが良い」「快適な着心地」など、ダウンジャケットのクリーニングが実現できると提案、ユーザーからも高評価の声が寄せられている。

〈快適な着心地〉を提供

春先のダウン需要に合わせて「ダウン用洗剤」と「仕上げ剤」の組み合わせで競合店との差別化、需要掘り起しに……。繁忙期を前に、エイエムジーでは今年もダウン洗いの需要喚起支援で、水洗い洗剤による「プロのダウン洗いキャンペーン」をスタートした。

これは、新開発の「ダウン用洗剤」と「仕上げ剤」の組み合わせで、従来の洗剤よりも「低温で汚れ落ちが良い」「また仕上げ剤についても「袖通し・ファスナーの滑りが良くなる」など機能性もアップする」と好評の声が寄せられているという。それによると、洗剤に関しては「手間が省ける」と話している。

「使って良かった」「ユーザーから好評価」

「低温で汚れ落ちが良い」。また仕上げ剤についても「袖通し・ファスナーの滑りが良くなる」など機能性もアップする

既に取り入れている業者からも「使ってみて良かった」と好評価の声が寄せられているという。それによると、洗剤に関しては「手間が省ける」と話している。

・汚れ落ちが変わった

岐阜県可児市の太田クリーニングでは、最初は半信半疑で購入したが使ってみて驚いたと話す。



プロのダウン洗い AMGがキャンペ

早川圭樹社長は「正直、洗剤で汚れ落ちがそんなに変わるとは思っていませんでした。実際、本当にきれいに落ちるんだとビックリした次第です。導入以前は、ササラがけやシミ抜きをしていたが導入してからはそれらの作業がすごく減ったことで「作業面でも大助かりしています」。

・常温で洗い直し減少

また、東京都柏江市のA社では常温でも汚れ落ちがよく、以前まで使用していた洗剤と比べて洗い直しが激減したのに驚いた。小島康宏さんは洗

い上がりに関して「シワが減っているのは嬉しい分かります」。また袖通しが良くなるなど着心地が変わった。実際お客さんから「ファスナーの滑りが良くなった」と喜ばれていると話している。

ダウン用洗剤・仕上げ剤 低温アルカリ洗浄と遜色ない高い脱脂力

「ダウン用洗剤」は、低温（常温）洗浄でも皮脂汚れ、鉱物油・食用油などの油汚れに高い洗浄力を発揮することを目的に開発・商品化した中性タイプの液体洗剤。移染防止剤配合でダウン・色柄物などに適する。また抗菌・消臭効果が高い「D-リチネン」を配合しているほか、浴中平滑剤を配合することで羽毛が絡みにくく、束になりやすい。これにより、低温でのアルカリ洗浄と比べて

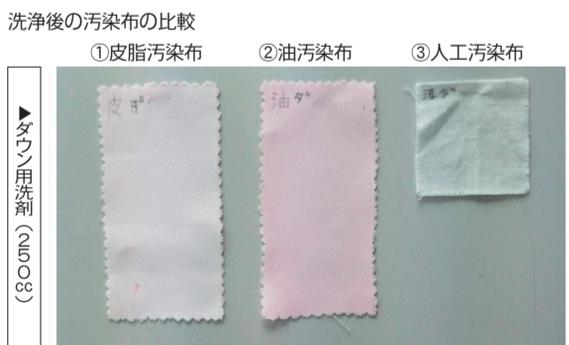
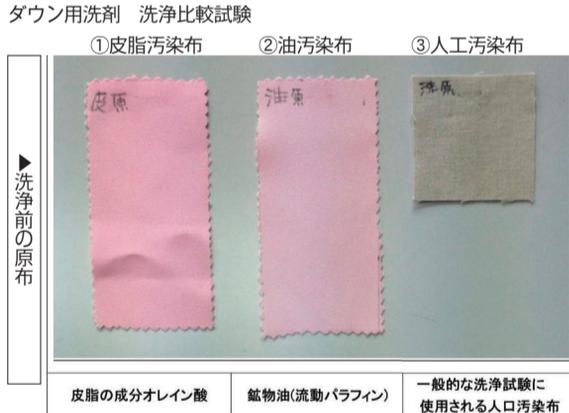
中性・常温でも弱アルカリ以上の洗浄力を発揮する（上）が洗浄前・下が洗浄後

「ダウン用洗剤」は、比較的強い脱脂力を発揮。襟袖などのブラシがけやシミ抜き、ダブル洗いなどを軽減し、繊維にダメージを与えないのもセールスポイントとなっている。主な特徴は、▽中性・常温で弱アルカリ以上の洗浄力▽羽毛を傷めない中性で羽が固まりにくい▽浴中平滑剤が生地の裂傷、羽毛の噴き出しを防ぐ、等。中性だから色柄物も安心、アルカリ焼けの心配も不要。通常、水洗いでは落ちにくいとされる皮脂や油汚れに強いことから、ダウンだけでなく作業服やワイシャツのエリ・袖などにも活用できる。撥水剤（AMGガード）などの二次加工にも適している。特に頑固な汚れには前処理剤（エクスパート）との併用で後処理の手間が省けると提案する。

また、中性洗剤である理由としては、アルカリ洗剤でダウンを洗うと羽毛の羽同士が束になって絡まり、ダメになって固まりやすくなる。例えは、皮脂を落とすのにワイシャツ洗いにはアルカリ剤を入れて洗うが綿・ポリエステルはダメージを受けにくい素材のため。同社によると、ダウンはケラチンというタンパク質が主成分で、どうしてもダメージを受けてしまう。これまで微細な色柄物、また生地のアルカリ焼けなどのリスクが高いのが悩みの種。

洗浄比較試験

左図は、ダウン用洗剤の洗浄力を確認した試験。洗浄前と洗浄後それぞれの汚染布を比較した内容となっている。



洗浄結果データ

	①皮脂汚染布	②油汚染布	③洗濯協会汚染布
ダウン用洗剤 洗浄率	89.2%	64.5%	75.5%
弱アルカリ洗剤 オレンジ洗剤 洗浄率	40.8%	17.9%	67.2%

※洗浄率の算出方法 (洗浄後の汚染布の反射率 - 洗浄前の汚染布の反射率) × 100 (汚染布原布の反射率 - 洗浄前の汚染布の反射率)

汚染布は①皮脂汚染布は皮脂の成分オレイン酸、②油汚染布は鉱物油（流動パラフィン）、③人工汚染布は一般的な洗浄試験に使用される人工汚染布、をそれぞれ使用して

いる。処理方法は、22kg水洗機で、中水位（約70L）、常温（10℃）。洗浄5分、濯ぎ3分、脱水5分、乾燥機処理。

洗浄結果は、上から原布、中央がダウン用洗剤、下が弱アルカリ粉末洗剤とオレンジ洗剤で洗浄後の状態。数値については（洗浄後の汚染布の反射率）÷（汚染布原布の反射率）× 100。

「ダウン用洗剤」は別項の洗浄比較試験で確認しているように常温から40℃以下の水温でもアルカリ洗浄より皮脂汚れに効果を発揮。中性洗剤だからアルカリ焼けを起さず、皮脂を落とすのにワイシャツ洗いにはアルカリ剤を入れて洗うが綿・ポリエステルはダメージを受けにくい素材のため。同社によると、ダウンはケラチンというタンパク質が主成分で、どうしてもダメージを受けてしまう。これまで微細な色柄物、また生地のアルカリ焼けなどのリスクが高いのが悩みの種。

「ダウン用洗剤」は別項の洗浄比較試験で確認しているように常温から40℃以下の水温でもアルカリ洗浄より皮脂汚れに効果を発揮。中性洗剤だからアルカリ焼けを起さず、皮脂を落とすのにワイシャツ洗いにはアルカリ剤を入れて洗うが綿・ポリエステルはダメージを受けにくい素材のため。同社によると、ダウンはケラチンというタンパク質が主成分で、どうしてもダメージを受けてしまう。これまで微細な色柄物、また生地のアルカリ焼けなどのリスクが高いのが悩みの種。

「ダウン用洗剤」は別項の洗浄比較試験で確認しているように常温から40℃以下の水温でもアルカリ洗浄より皮脂汚れに効果を発揮。中性洗剤だからアルカリ焼けを起さず、皮脂を落とすのにワイシャツ洗いにはアルカリ剤を入れて洗うが綿・ポリエステルはダメージを受けにくい素材のため。同社によると、ダウンはケラチンというタンパク質が主成分で、どうしてもダメージを受けてしまう。これまで微細な色柄物、また生地のアルカリ焼けなどのリスクが高いのが悩みの種。

「ダウン用洗剤」は別項の洗浄比較試験で確認しているように常温から40℃以下の水温でもアルカリ洗浄より皮脂汚れに効果を発揮。中性洗剤だからアルカリ焼けを起さず、皮脂を落とすのにワイシャツ洗いにはアルカリ剤を入れて洗うが綿・ポリエステルはダメージを受けにくい素材のため。同社によると、ダウンはケラチンというタンパク質が主成分で、どうしてもダメージを受けてしまう。これまで微細な色柄物、また生地のアルカリ焼けなどのリスクが高いのが悩みの種。

「プロのダウン洗いセット」は水洗い用で、1セットの容量は200g、分量はそれぞれ4L入り。1着のコーストは41円（例：20kg水洗機で10着/回）。セットの特徴である▽皮脂、鉱物油、食用油に高い汚れ落ち▽羽毛にやさしい中性・低温洗い▽袖通し、ファスナーの滑りの良さ▽抗菌・消臭効果を是非、体感していただきたいと提案しており、既に問い合わせも寄せられているとのことだ。

キャンペーンの詳細は電話075・9333・7171同社または最寄りの機材商社まで。